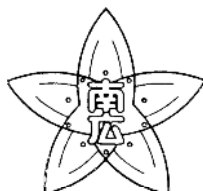


平成19・20年度文部科学省指定

「道徳教育実践研究事業～伝え合う力を養う調査研究事業～」指定校

研究紀要



学ぶ意欲をもち、主体的に学習に取り組む子どもの育成
～ 伝え合う力を高め、豊かな人間関係を構築する力を培う～



広川町立南広小学校

目 次

学校の概要

1 校区の概要	1
2 沿革の概要	1
3 児童数	2
4 教育目標	2
5 重点目標	2

研究の概要

1 研究主題	4
2 主題設定の理由	4
3 研究主題に迫るための視点・研究仮説	5
4 研究組織	7
5 研究経過	7
6 「伝え合う力」の定義	10
7 「伝え合う力」を育む学習プラン	10
8 研究構想について	11

当校の具体的取組

1 各専門部会の取組	
(1) 道徳部会	15
(2) 特別活動部会	20
(3) 国語科部会	27
2 「伝え合う力」を育む場での取組	
(1) あいさつ運動	31
(2) 本分校の交流	31
(3) 児童朝会	31
(4) 読み聞かせ	32
(5) 学年行事	32
(6) 運動会	32
(7) 校内音楽会	32
(8) 地区別ボランティア清掃活動	33
(9) 地域との交流・連携(共育)	33
(10) 1年生を迎える会	33
3 「伝え合う力」生活アンケート	34
4 研究の成果と課題	36

学校の概要



本校

1 校区の概要

当校の校区は広川町の南部に位置し、全部で12の地区がある。校区は、東西に約6kmと広く、東に井関分校、西に西広分校があり、本校は校区のほぼ中央に位置する。このように2つの分校を有していることが当校の大きな特徴となっている。校区には、西に唐尾湾を臨む風光明媚な海岸線があり、東にかけてみかん畑や水田等が広がっている。地域のほとんどがのどかな田園地帯で、落ち着いた自然豊かな環境にあるが、国道42号線や湯浅御坊道路の広川インター、JR広川ビーチ駅があるため、交通の便がよい地域でもある。

保護者の主な職業はかつては農業であったが、近年兼業農家が増加してきている。そのような中でも、みかんなどの果樹栽培や米作り、ビニールハウスによる花卉栽培等に携わる人が多い。また、他地域から移り住む人も多くなり、保護者の職種も多様化してきている。

保護者も含めた地域の人々は学校教育に関心が深く、学校に対して支援や協力を惜しまず、積極的に学校教育にかかわってくださっている。

2 沿革の概要

明治	9年	7月	創立が認可され、殿小学校が開校される。
	9年	8月	西広小学校が開校される。
	10年	4月	井関小学校が開校される。
	14年	7月	上中野小学校が殿小学校から分離して開校される。
	36年	4月	上中野、西広、井関の3校が合併して南広尋常小学校となる。本校を上中野に置き、西広、井関をそれぞれ分教場とする。
昭和	16年	4月	校名を南広国民学校と改称する。
	22年	4月	義務教育が9カ年となり、校名を南広小学校と改める。
	30年	4月	町村合併により、校名が広川町立南広小学校となる。
	35年	5月	鉄筋コンクリート造りの現校舎が完成する。
	38年	9月	講堂が完成する。
	51年	11月	創立100周年記念行事が行われる。
平成	5年	1月	井関分校新校舎が完成する。
	5~8年		本校校舎が大規模改修される。
	9年	2月	西広分校新校舎が完成する。
	11年	11月	有田地方教育委員会連絡協議会指定総合的な学習研究発表会を行う。
	13年	11月	才能開発実践教育賞を受賞する。
	15年	3月	井関分校が県農業教育賞最優秀賞を受賞する。
	15~17年		「人権教育総合推進地域事業」(文部科学省指定)推進協力校の指定を受ける。
	17年	3月	新運動場及びコンピュータ室・家庭科室が完成する。
	18年	3月	体育館(屋内運動場)が完成する。
	18~19年		「総合的な学習の時間モデル事業」(文部科学省指定)推進協力校の指定を受ける。
19~20年		「道徳教育実践研究事業~伝え合う力を養う調査研究事業~」(文部科学省指定、県小学校道徳教育研究会指定、有田地方教育委員会連絡協議会指定)研究校の指定を受ける。	

3 児童数

(平成20年9月1日現在)

学年等		1年	2年	3年	4年	5年	6年	なかよし	計
本校	男	10	11	11	16	13	22	1(5年)	192
	女	20	13	18	16	20	21		
西広	男	4	3	2					20
	女	4	3	4					
井関	男	0	3	0					7
	女	0	2	2					
計		38	35	37	32	33	43	1	219
学級数		2	3	3	1	1	2	1	13

4 教育目標

自ら生き生きと活動できる心豊かでたくましい子どもを育てる

- よく考えて進んで行動する子 (かんがえる子)
- 思いやりがあり協力的で心豊かな子 (やさしい子)
- 健康でねばり強く頑張りのきく子 (がんばる子)

5 重点目標

- (1) 児童の主体性を生かす学習指導の実践
教科指導や総合的な学習の時間の充実
特別活動の充実
- (2) 豊かな心の涵養をめざす実践
道徳教育の充実
体験活動の充実
人権教育の推進
特別支援教育の推進
- (3) 健康・安全の保持増進を図る実践
体力づくりの推進
健康教育・食育の充実
安全教育の充実
- (4) 生徒指導の徹底を図る実践
教育相談体制の充実
生活習慣の定着化、集団生活の規律の徹底

研究の概要



西広分校

1 研究主題

学ぶ意欲をもち、主体的に学習に取り組む子どもの育成

～ 伝え合う力を高め、豊かな人間関係を構築する力を培う～

2 主題設定の理由

(1) 児童を取り巻く社会の状況

現在の科学技術の進歩と経済の発展は物質的な豊かさを生んできた一方で、価値観の多様化、少子高齢化、国際化、情報化、産業構造の変化等社会に大きな変化をもたらした。これらの社会の変化に主体的に対応し新しい社会を創造していくためには、一人一人が意欲的・主体的に学び、考える力や表現する力、生涯にわたって自己を高めていく力の育成を図らねばならない。

一方、コミュニケーションの不足、人間関係の希薄化が指摘される世の中である。最近の出来事を見ると、そのことが原因とも考えられる犯罪や事件が頻発している。インターネットや携帯電話を使ったコミュニケーションは盛んに行われているが、相手と向かい合った人間関係は結びにくくなっている面がある。グローバル化が一層進むと考えられるこれからの時代を生きる子どもたちにとって、立場やものの考え方の違う人と交わり共に生きていくためには「伝え合う力」は極めて重要であると考えられる。

(2) 当校児童の実態と教師の願い

時代とともに児童を巡る家庭や地域の状況は大きく変貌しつつある。しかし、四季折々の豊かな自然に囲まれ育つ当校の児童は、明るく温和で、やさしく鷹揚なところがある。また、学習や与えられたことに対しては総じてまじめに取り組もうとする。しかし、様々な活動場面では言われてから行動する指示待ち傾向の児童が多く見られるのが課題である。

そこで、平成18年度までの3年間は、国語科と算数科をとおして、体験的な学習や問題解決的な学習を充実させる中で、児童の学ぶ意欲と主体性を生かす学習をめざし、上記の課題に迫ってきた。取組を進める中で、自分の考えを自分の言葉で発表したり話し合ったりする表現力の面においても新たな課題が見られることが分かった。表現力に課題があることは他教科等の学習においても課題であり、さらに、人間関係を構築していく上においても課題となることであった。

当校の児童の中には、思ったことを自己主張することが不得意な児童が少なくない。周りとうまくやっっていこうとするが、言葉で気持ちや考えを伝え合うことは、控えめである。そのため、互いに理解し合う中での一歩踏み込んだかわりやすくにはできにくいところがある。また、身のまわりの問題を双方で話し合っ解決しようとする意識が低い。直接相手に言わず教師に訴えることが多い。教師から言われると話し合ってみようとするが、十分思いを伝えず、「ごめんなさい。」「いいよ。」で済ませてしまうようなところが見られる。自分が言いたいことを相手に適切に伝えられず、内へこもらせてしまうこともある。中には、語彙や表現力の乏しさから発言の意欲が薄らいだり、体験不足から話し合いがうまくできなったりする児童

がいる。

そうしたことから、体験活動を充実する中で、自他ともに尊重し、互いの思いや考えを伝え合い、生活上の問題を言葉で解決する力を高めることを重視する必要があると考えられる。

以上の考えに基づき、一人一人が自ら学ぶ意欲をもち、望ましい人間関係構築のための「伝え合う力」を身に付けた子どもの育成をめざして、標記の主題を設定した。

3 研究主題に迫るための視点・研究仮説

(1) 話しやすい学級づくり、学校づくり

言いたいことが言え、お互いの思いや考えを語り合うためには、話しやすい雰囲気づくり、教育環境づくりが大切である。子どもと子ども、子どもと教師、教師と教師の信頼関係が築け、受容的な人間関係ができていれば、お互いの思いを語り合い、話し合いを深め、「伝え合う力」が育っていくであろう。まず、教師が子どもと向き合い、じっくりと子どもの話に耳を傾けるようにしたい。

(2) 豊かな心情を育てる道徳の時間の充実

児童は学校・家庭・地域、すべての生活場面の中で、個々に道徳的価値をもって生きている。行為として表れるものは、すべて、児童に内在する心の動きが表れ出したものである。そして、その心は、常に揺れ動いていると言える。

道徳教育は、教育活動全体を通じて行うものである。その要（かなめ）となる道徳の時間においては、児童の「心の揺れ動き」に教師がまず目を向け、その「心の揺れ動き」に児童自身が心を寄り添えるようにする。そして、道徳性についての自覚を深めながら、児童一人一人が、自らのよりよい生き方をめざすことができるよう、自己を見つめ、人間の生き方について考え、道徳的価値を主体的に自分自身にとって大切なものと自覚するようにしてきた。

道徳の時間は、児童の話し合いによって成立し、多様な価値観に学び合いながら、価値の主体的自覚を深める時間である。そのねらいを十分に達成するためには、教師と児童、児童相互の信頼関係が成り立ち、何でも心を許して話し合える学級がつくられていなければならない。

まず、教師が、児童一人一人の思いを理解し、人間としての生き方を求める者同士として、共感的態度で接することによって、その姿勢が伝わり、児童は価値を心から受けとめ、自分自身の問題として自覚していくものとする。教師は、児童の道徳性を高めると同時に、児童自身がよりよい生き方を求めている面に着目し、その要求を満たすために、道徳的価値を実現することが自分の喜びにつながることを児童に気付かせる必要がある。喜びが自分の求める生き方の中に見出せることで、児童は、価値を自分のものとして主体的に自覚すると考える。

「伝え合う力」を育むために、道徳の時間において大切にしたいことは、自尊感情と相手を思いやる心の涵養である。児童がしっかりと自分の思いを語り相手の話

に耳を傾け、自分の心を見つめられる道徳の時間をめざしたい。

(3) 人間関係の育成をめざす特別活動の活性化

当校では、特別活動を実践的な場の中心として位置づけ、伝え合う態度の育成を図る場として考えている。仲間とともに活動する中で、集団の一員としての自覚を深め、自他とともに尊重し協力してよりよい生活を築こうとする自主的な態度を育成する。そのためには、児童による自主的・実践的な活動が助長されるように支援することが大切であろう。

学級会や代表委員会等での話し合い活動、児童の自発的、自治的な活動が効果的に展開されるよう、また、内容相互の関連を図るよう適切な指導をすれば、指示されたからするのでなく主体的に取り組もうとする態度、生活上の課題を言葉で解決する力、「伝え合う力」の内なる定着が図れると考えられる。

児童にとって学級は学校における生活の基盤である。学級の児童一人一人が楽しい学校生活を過ごせるためには、自分の思いを聞いてもらえる学級であることが不可欠である。

(4) 国語科における「伝え合う力」の育成

自分の思いや考えを的確に相手に伝えるためには、語彙の習得はもちろんのこと、「伝え合う力」の基盤としての技術・技能を身に付けることが必要となろう。

明確な目的のもとに、相手を意識し、話す力、聞く力、話し合う力（国語科における「伝え合う力」）の育成のためには、発達段階を考慮し、学年別年間指導計画に沿い、「話すこと、聞くこと」を大事に取り組むことが必要である。指導においては、発表の場を多くし、発表できた喜びが自信、意欲につながるよう配慮する。

国語科での「伝え合う力」の育成を重視するとともに、各教科等においても、「伝え合う力」の活用を計画的・意図的に設定することが必要である。このことにより、生活の場で生きて働く「伝え合う力」を育成することができる。そのためにも、相手の反応を見て、判断しながら話したり、話の要点のメモをとりながら聞いたりするなどの具体的な言語活動を取り入れ、きめの細かい定着を図る取組が必要であろう。

(5) 道徳の時間と特別活動と国語科を効果的に関連させた学習展開

道徳の時間を伝え合う心情を培う場、特別活動を伝え合う態度の育成を図る場、そして国語科を、「伝え合う力」の基盤としての技術・技能を身に付ける場と位置づける。そして、それぞれの特質を生かした授業の工夫をするとともに、相互に関連させた学習展開、「伝え合う力」を育む効果的なカリキュラムのあり方について研究を深めていかなければならない。（詳細は「伝え合う力」を育む学習プラン参照）

(6) 社会的なルールやマナーの習得

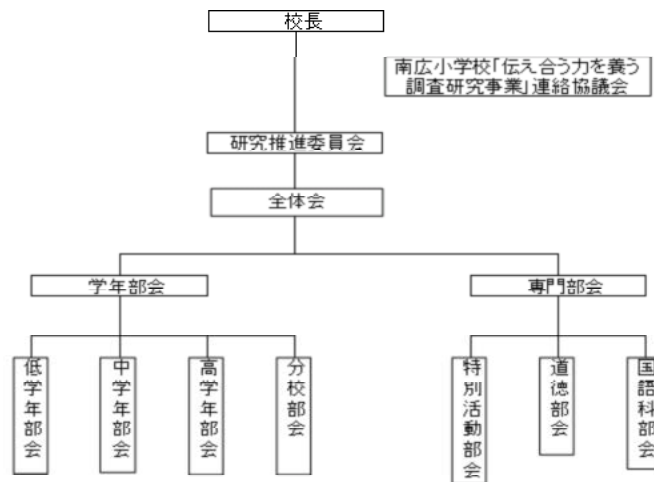
家庭や地域の教育力が低下したと言われる現代において、児童の規範意識やマナーに対する指導が不可欠であると考え。人とかわり、社会に参加していくため

の知識と技能を身に付けていけば、豊かな人間関係を構築する力が育っていくであろう。

- ・「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」という基本的なあいさつ
- ・話し方、聞き方のマナー
- ・気持ちや思いの伝え方

4 研究組織

研究推進委員会で研究推進についての原案の作成・研究の方向づけ等を行い、全体会において職員の共通理解を図る。そしてそれをもとに専門部会や学年部会で具体的な取組のあり方について協議し、実践していく。実践の後、評価や反省、及び課題については逆の順に協議しまとめていく。



5 研究経過

[平成19年度]

- 5月16日(水) 全体会 「伝え合う力を養う調査研究事業」研究指定について
- 17日(木) 事業説明 和歌山県教育委員会 川岸俊夫 指導主事より
 - 21日(月) 研究推進委員会 今後の研究の方向と取組について
 - 23日(水) 全体会 児童の実態把握
- 6月15日(金) 道徳部会 道徳の時間年間指導計画について
- 18日(月) 研究推進委員会 話し合い活動アンケートについて
 - 20日(水) 全体会 「つきたい力」の共通理解
 - 27日(水) 校内授業研究会
公開授業
第6学年 研究授業 学級活動 「最上級としてできること」
- 7月 6日(金) 伝え合う力を養う調査研究事業指定に伴う研修会に参加
(岩出市立上岩出小学校)

- 24日(火) **研究推進委員会** 「つきたい力」及び評価規準について
- 31日(火) **全体会** 出口久先生 招聘
講演「道德の基礎・基本」
- 8月9～10日 全国特別活動研究協議大会東京大会に参加
- 20日(月) **研究推進委員会** 研究仮説、アンケート、特別活動年間指導計画について
- 9月 5日(水) **全体会** 「伝え合う力」生活アンケートについて
- 26日(水) 特別活動部会 特別活動年間指導計画について
- 27日(木) **研究推進委員会** 「学級における道德教育計画」の作成について
- 10月 3日(水) **全体会** 「伝え合う力」を育む場について
特別活動年間指導計画について
- 4日(木) 保護者への道德教育に関するアンケートの実施
- 16日(火) 校内授業研究会 指導助言 出口久先生
公開授業
本校第3学年研究授業 道德「キウイフルーツのたなの下で」
- 11月13日(火) 兵庫県小学校特別活動研究大会に参加(たつの市立龍野小学校)
- 14日(水) **全体会** 「伝え合う力」を養う取組について
- 16日(金) 近畿中学校道德研・滋賀県小中学校教育研究会道德部会研究
発表会に参加(米原市立息郷小学校)
近畿小学校道德研究会に参加(熊取町立東小学校)
- 21日(水) **全体会** 単元構想について
- 22日(木) **研究推進委員会** 学習指導案単元構想について
- 29日(木) 伝え合う力を養う調査研究事業指定に伴う中間発表に参加
(岩出市立上岩出小学校)
- 30日(金) 児童生徒の心に響く道德教育推進事業研究発表会に参加
(和歌山市立岡崎小学校)
近畿特別活動研究協議会 京都市大会に参加
(京都市立紫竹小学校)
- 12月 5日(水) 校内授業研究会
公開授業
本校第1学年研究授業 道德「がんばれポポ」
- 12日(水) **全体会** 研究会参加伝達講習
- 25日(火) **道德部会** 研究構想「伝え合う力」を支える価値項目について
国語部会 国語科の研究の柱及び研究内容について
- 1月 9日(水) **全体会** 研究構想について
- 18日(金) 大阪教育大学 藤永芳純 教授(大阪教育大学附属天王寺小学校長)
訪問
- 23～25日 平成19年度道德教育指導者養成研修(ブロック別指導者研修中央研修)(近畿ブロック)に参加

- 29日(火)教育講演会開催「前思春期の子ども心と親の態度」
 講師 和歌山県教育センター学びの丘 紀南相談課 上野晃課長
 受講者 保護者及び第4・5・6学年児童
- 2月 1日(金)和歌山県伝え合う力を養う調査研究事業推進会議に参加
 5日(火)研究推進委員会 「伝え合う力」生活アンケート結果分析
 13日(水)校内授業研究会
 公開授業
 第4学年研究授業 学級会 「そうじを見直そう」
- 20日(水)全体会 学習構想・研究構想について
 27日(水)専門部会 本年度の成果と課題について
 29日(金)和歌山放送 宮上明子 アナウンサー招聘
 出前授業及び事後研修
- 3月25日(火)全体会 指導案の形式について
 道徳年間指導計画見直し、風土づくりについて
 (道徳部会より)
- 27日(木)研究推進委員会 川岸指導主事招聘 今後の取組について

[平成20年度]

- 4月 3日(木)研究推進委員会 本年度の研究の進め方について
 7日(月)全体会 本年度の取組について
 16日(水)道徳部会 校舎内掲示物作成及び掲示
 28日(月)保護者への道徳教育に関するアンケートの実施
 30日(水)全体会 道徳年間指導計画について 掲示物の内容について
 南広小学校「伝え合う力を養う調査研究事業」連絡協議会開催
- 5月 6日(火)国語部会 教室掲示物作成及び掲示
 7日(水)全体会 関連学習構想図の表記の仕方について
 13日(火)特別活動部会 縦割班活動について 学級会グッズの見直し
 21日(水)上岩出小学校 道徳教育講演会に参加
 26日(月)校内授業研究会 指導助言 大阪教育大学 藤永芳純 教授
 公開授業
 第6学年研究授業 道徳 「頂上はすぐそこに」
 講演「道徳の時間に学ばせたいこと」
 講師 大阪教育大学 藤永芳純 教授
- 29日(木)研究推進委員会 「伝え合う力」を育む学習プランについて
- 6月16日(月)全体会 「伝え合う力」を育む学習プランのねらいについて
 18日(水)校内授業研究会
 本校第1学年研究授業 道徳 「だいじょうぶだよ」
 25日(水)校内授業研究会
 西広分校第1・2・3学年研究授業
 西広っ子会議 「カレー作りをしよう」
 井関分校第2・3学年研究授業

道徳 「プレゼント」

- 7月 2日(水) 校内授業研究会
本校第3学年研究授業 道徳 「たまちゃん、大すき」
- 3日(木) **研究推進委員会** 研究紀要記載内容について
- 9日(水) **全体会** 研究紀要について
- 17～19日 「伝え合う力」生活アンケート実施
- 22日(火) **全体会** 1学期「伝え合う力」を育む学習プランの成果と課題
各自発表・協議
- 24日(木) **研究推進委員会** 夏休み研修内容について
- 28日(月) **全体会** 7月実施「伝え合う力」生活アンケート分析
- 31日(木) **各専門部会** 研究のまとめ方について

(指導助言 和歌山県教育委員会 川岸俊夫 指導主事)

(指導助言 広川町教育委員会 井端浩二 指導主事 中山真弘 指導主事)

6 「伝え合う力」の定義

当校の児童は、主題設定の理由にも記したように、人とのかかわりが薄く、問題解決意識が弱い。そこで当校では、「伝え合う力」を以下のように考えた。

「伝え合う力」とは、一方的に伝えることなく、自他ともに尊重し、お互いに思いや考えを伝え合うことである。温かい心で相手を受け入れ、相手の言葉に耳を傾けることである。また、言葉を媒介として、伝えたいことをのびのびと主張することである。そして、一人一人が相手意識をもち、自分なりに問題意識をいただくことである。

つまり、以下のことをまとめて「伝え合う力」と定義した。

- ・自分や相手を大切に思い、人それぞれ様々な感じ方、考え方が
あるのだ と気付く力
- ・相手を信じ、共に生きていこうとする心
- ・一人一人を大切に話し合いをすることによって、問題解決
できる力
- ・異学年とのかかわり合いを深めること
- ・家族や地域の人等との豊かなふれ合いをもつこと

7 「伝え合う力」を育む学習プラン

「伝え合う力」は、生き方や価値観そのものと考えられるので、一つの教科等で達成していくものではなく、実践にあたっては、教科のつながりを考え、学校の教育活動全体で育てていかなければならないことである。

そこで当校では、「伝え合う力」を育む場を意図的に設定して取り組むとともに、「伝え合う力」を育むため、「伝え合う力」を育む学習プランを構築し、めざす子ども像に迫

ろうとした。

その学習プランは、児童の実態から、関連学習のねらいを定め、期間を1～1.5ヶ月とし、「**道德の時間**」、「**特別活動**」、「**国語科**」、「**その他の教育活動**」、それぞれの特質を生かしながら、有機的に関連させた形で構築した。

「**伝え合う力**」を育む学習プランを構築することで、特別活動等体験で身に付けた**道德的価値**を**道德の時間**でより深く感じ取ることができ、さらに**道德の時間**に培われた高い**価値観**に基づいた**道德的実践**ができるようになるのではないかと考えた。1時間1時間の学習活動を大切に、それぞれの授業のねらいを達成できる授業展開を工夫し、「**伝え合う力**」を高めてきた。取り組んだ内容やその様子の写真、児童の発言等を『**関連学習のあしあと**』として掲示することで、児童の意識の流れを継続しておくことができ、学習の足跡も明確になると考えた。学習を振り返ることによって、前回の学習での自分の思いや気付きを想起し、次の学習へと生かすことができ、**道德的価値**を深めることができる。また、目に触れることによって、どう



写真1 関連学習のあしあと

いうふうに関連し合っているのか常に意識でき、主体的に取り組むことができる。

本校第1学年「伝え合う力」を育む学習プラン				
関連学習構想図				
月	特別活動	道德の時間	国語科	その他
6	学級会活動 【七夕まつりの計画をたてよう】 楽しい会にするために会の内容や出し物などを考え、話し合っって計画をたてる。	【ありがとう】 主題名「ありがとうの言葉を」 2 - (4)(東書) 上級生の子に保健室まで連れてもらっているわたしの気持ちをとおして、日ごろお世話になっている人びとに感謝する心を育てる。	【たんけんしたよ、みつけたよ】 探検したことや前ではつきり話し、友達の発表を静かに聞くことができる。	こえのものさしはなしじょうず ききじょうずはなしかた 【帰りの会】 いいこと発見 こころのノート(ありがとうカード)
7	学級会活動 【七夕まつりをしよう】 みんなで協力しながら、楽しい会ができるようにする。	本時 【だいじょうぶだよ】 主題名「助け合う友達」 2 - (3)(文溪) 鉄棒が苦手な「へたくそ」と言われ後ろ向きになってしまったはるかが、同じクラスのさおりに励まされ前向きになっていくその心情の動きに共感させ、友達と仲良く助け合っっていこうとする気持ちを育てる。		音楽 【たなばたさま】 図画工作 【みつけたよ トライなたなばたかざり】 こころのノート(ともだちパワーをあつめよう)

図1 「伝え合う力」を育む学習プラン

8 研究構想について〔図2参照〕

(1) めざす子ども像に迫るつきたい力

互いに気持ちや考えを「**伝え合う力**」の育成
 話し合う力・聞き合う力

(例えば、聞き合う力)ここでの思いは気持ちより深い(気持ち<思い)とおさえた。

低学年...話し手の考えを受け入れる力

中学年...話し手を思いやる気持ちをもって聞く力

高学年...話し手の考えと自分との共通点や差異点を見つけ、自分と考えが違えば、その考えを受け入れ、自分の考えを見直すという受容的な気持ちをもって聞く力

生活上の問題を言葉で解決する力の育成

一人一人が相手意識をもち、自分なりの問題意識を抱く力

「一人一人の考えや思いはそれぞれの経験に基づく大切なものである」と認め合うことが、一人一人を尊重し、温かい気持ちをもつことにつながっていく。「集団の一員である」という自覚をもって解決していく力が大切であると考え、特に高学年では、集団としてと設定した。

以上のことをふまえて、つけたい力を学年・なかよし学級別に次の3点ずつ具体的に表記した。(各学年・なかよし学級のつけたい力は研究構想図の中ほどに表記)

・話し合う力の育成

・聞き合う力の育成

・一人一人が相手意識をもち、自分なりの問題意識を抱く力の育成

(2) つけたい力を育成するための基礎固め(構想図下部に表記)

学級・学校で、まず子どもたち一人一人誰もが話しやすい雰囲気づくり

「伝え合う力」を育む場の意図的な設定

各教科等の特性に基づいた「伝え合う力」の育成

家庭・地域との連携

(3) 「伝え合う力」を育む学習プラン

(道徳の時間)

人・もの・こととのつながりやかかわりを大切にして、よりよく生きようとする心情を培う指導の充実

(特別活動)

同年齢集団での活動・異年齢集団での活動・地域とのかかわりを大切にした活動を重視した人間関係の育成

(国語科)

「話す・聞く・話し合う」の基本的能力を高める指導の充実

(道徳の時間と特別活動との関連)

国語科を土台として、道徳の時間と特別活動を関連させ、つけたい力の育成を図る。その関連させる主な内容として、道徳の時間で高め深める道徳的価値を、「自分を大切に思う心」「相手を大切に思う心」「共に生きていこうとする心」の3つとし、特別活動では道徳的实践を意識して、「一人一人を大切にした学級での話し合い」「学年をこえた心の通い合い」「地域の人との豊かなふれ合い」の3つを掲げた。これら3つの『合い』を大切にし、3つの『心情』を高めようとした。道徳の時間では、特

別活動などにおいて子どもたちが共通に経験したことや体験したことをもとに、道徳で扱う道徳的価値や道徳の時間の資料の内容を、子どもたちの実際の生活に置き換えて想起させたり、具体的にイメージさせたりする。また、学級活動・学校行事、日常活動などの特別活動は、「伝え合う力」を生かしてよりよい人間関係づくりを推進する体験や実践の場ととらえる。道徳の時間に育んだ道徳的実践力の実感的理解や手ごたえをつかむようにさせ、日常化をめざす。

このような見通しをもって「伝え合う力」を育む学習プランを構築し、道徳と特別活動のそれぞれの特質を損なうことなく、より効果的になるように関連させ、実践することを研究全体構想の中心とした。

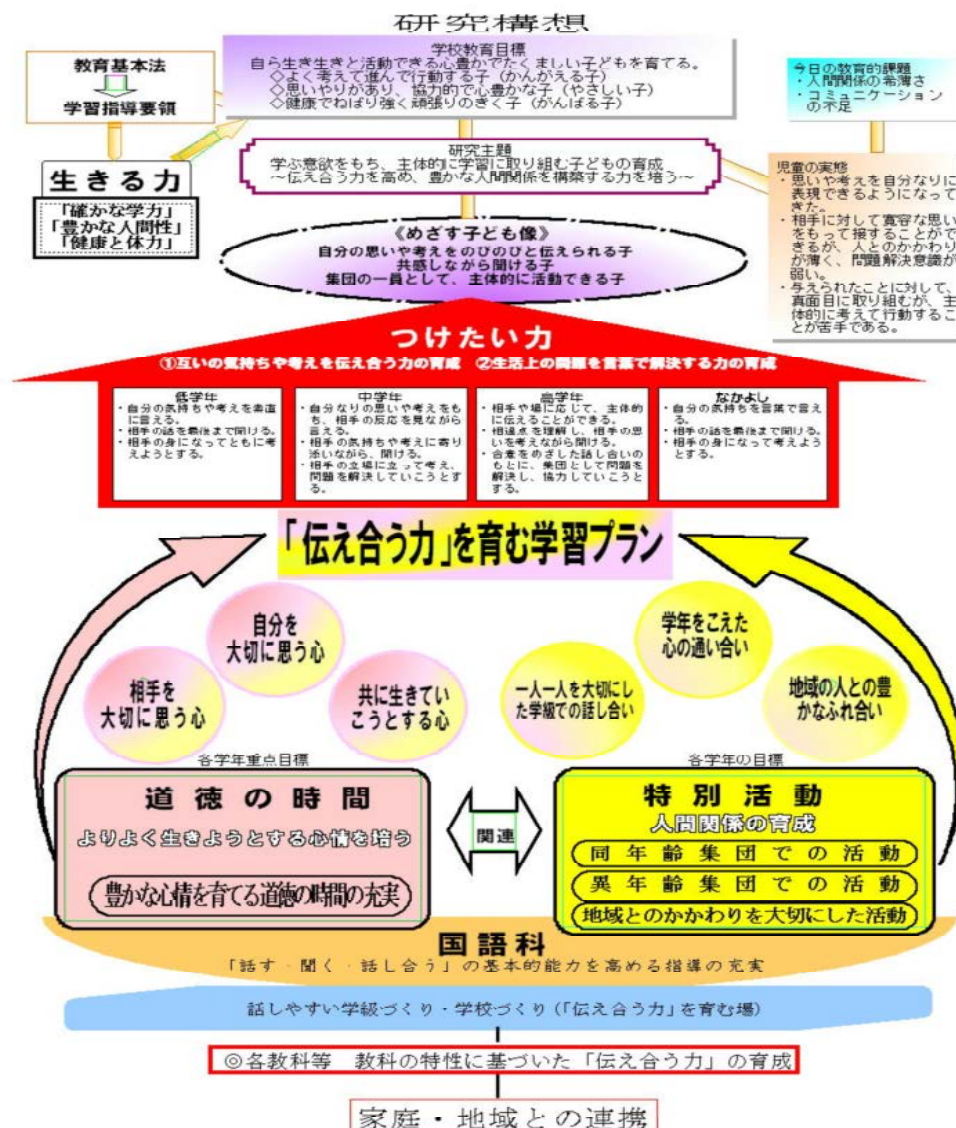


図2 研究構想

当校の具体的取組



井関分校

1 各専門部会での取組

(1) 道徳部会

「伝え合う力」を育むためには、まず自尊感情を高め、他人を思いやる心を育むことが大切であると考え、道徳の時間の充実を図った。指導においては、自分の思いを語り、友達の思いを聞くことにより、自分の心の中をじっくり見つめることを大切にしてきた。また、児童一人一人の発言を大切に扱い、児童の表情、つぶやきに気を配りながら、お互いの思いを伝え合う場にしたと考え、実践してきた。

年度当初には、道徳教育全体計画（図3）の見直し、学級における道徳教育計画（図4）の作成及び各学年における道徳の時間の年間指導計画（図4）の見直しを行った。道徳的価値の一層の深化をめざし、児童の意識の流れを大切に「伝え合う力」を育む学習プランを立てて実践することにした。



図3 道徳教育全体計画

月	関連行事等	指導内容(項目)	資料名(出典)	心のノート	ねらい	各教科等
4	・新学期入学式 ・遠足	愛校心4-(3) 節度ある生活態度1-(1)	たのしいがっこう(文溪) チャイムがなりました(東書)	○	先生や上級生、友達に親しみ、学校生活を楽しもうとする気持ちを育てる。 決められた時刻を守ることの大切さを知り、時刻を守ろうとする態度を養う。	・生活科「いちねんせいになったよ」 4-(3) ・学級活動「きまりやくそくをまもろう」 1-(1) ・国語科「はる」 2-(1)
5	・連休 ・家庭訪問 ・愛鳥週間 ・遊藝訓練 ・交通安全教室	公德心、規則の尊重4-(1) 礼儀2-(1) 節度ある生活態度1-(1)	うさぎのえんそく(東書) あいさつ(東書) あぶないあぶない(東書)	○	みんなで使うものを大切にし、人に迷惑をかけないようにしようとする態度を養う。 日常生活におけるあいさつの大切なことを知り、これを身につけようとする態度を養う。 危ない場所や遊びについて理解し、危険から身を守るようとする態度を養う。	・図工科「みんななかよし」 2-(3) ・国語科「たんけんしたよみつけたよ」 4-(3) ・生活「いちねんせいになったよ」 4-(3)
6	・学年分枝行事	生命の尊重3-(2) 感謝うた	でてくるちから(東書) あめがとち(東書)	○	生きていることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。 日々を大切に過ごしていきようとする態度を養う。	・学校活動「雨の日のあそびを考えよう」 3-(2) ・交流学習会 2-(2)



図4 道徳の時間の年間指導計画(第1学年)・学級における道徳教育計画(西広分校第1学年)

来年度に向けて全学年の年間指導計画の見直しを図る。

道徳の時間の充実

ア 資料

資料の選考は、次の点に留意しながら行った。

- ・ 児童の実態にあった資料
- ・ ねらいを達成するのに適した資料
- ・ 児童が自分のこととしてしっかり考えることのできる資料
- ・ 児童の多様な価値観を引き出すことができ話し合いが深まる資料
- ・ 児童も教師も深く感動する資料

また、ねらいを達成することができるよう資料分析にも努めた。

イ 授業展開

- ・ 児童が資料に興味をもち、状況について具体的にイメージできるように、実物や場面絵、写真や映像等を使い、意欲を高める導入にした。また、導入には時間をかけすぎないようにしながら、児童の意欲関心を高めるようにした。さらに、事前に実施したアンケートを活用し、価値への方向付けを行った。
- ・ 資料提示の方法は、児童の思考を助け、ねらいに迫ることができるように、場面絵を貼ったり、紙芝居やペープサートを使ったり、映像を見せたりするなどの工夫をした。
- ・ 発問構成は、資料分析を生かし、中心場面において児童の多様な考えを引き出せるように考えた。
- ・ 児童の心を揺さぶるような発問、心を動かすような発問、人間のもつ弱さや本音の部分を語れるような発問、共感を誘うような発問を考えた。そして、「間」を大事にし、児童がしっかり考えられるようにした。
- ・ 登場人物の気持ちに迫るために、動作化や役割演技を取り入れた。
- ・ 道徳的価値が少しでも高まるようにゲストティーチャーの話などを導入した。
- ・ 授業展開では、登場人物の「心の変化」に注目したい。何が心を変えさせたのかを理解することが大切である。ハートの絵を貼ったり、心情曲線を描いたりして、心情の変容が視覚的に捉えられるなど工夫を行った。

ウ 授業形態（学習環境）

- ・ 児童はコの字型に座ったり、半円のような形に座ったりして、お互いの顔を見ながら話し合い、気持ちや考えを伝え合えるようにした。
- ・ 教師は、児童の反応を見ながら授業が進められるような位置に立ったり、机間指導をしたり、その時々児童の反応に応じて立つ位置を考えた。

道徳アンケートについて

道徳教育を進めていくうえで、指導者の願いはもとより保護者の願いもふまえて指導することがとても大切なことである。そこで、保護者の思いや願いを知るために、低・中・高学年別の道徳アンケートを実施した。保護者が児童の道徳性について、特に育みたいと考えている内容項目を聞くものである。ほとんどの保

護者から回答が寄せられ、道徳教育への関心の高さがうかがえた。集計の結果の上位3項目をあげてみると、次のとおりとなっている。

本年度も2回目を実施し、回答結果もふまえ、それぞれの学級における道徳教育計画を立てたり、指導に取り組んだりしている。

授業参観の後、このアンケート結果も資料として活用し、道徳教育についての学級懇談会をもった。また、各学級で、道徳の参観授業を実施したり、学校便り等に道徳教育に関わる取組を掲載したりして、学校がどのような考えで道徳教育に取り組んでいるのかが地域や保護者の方に伝わるようにしている。

アンケートを実施することにより、保護者の思いや願いを知ることができただけでなく、保護者の道徳教育に対する啓発にもなり、学校と連携して取り組んでいこうと意識してもらえるいい機会にもなった。

	低学年	中学年	高学年
1位	自立節度	生命尊重	礼儀
2位	正直誠実・明朗	礼儀	親切
3位	礼儀、友情	親切	生命尊重

3 環境づくり（道徳の風土づくり）

登校してきた児童が毎朝見ることができるよう本校校舎壁面には『伝え合おう温かい心で』というスローガンを掲示している。



写真2 スローガン

このスローガンは、本研究指定でめざすことを、児童にわかりやすく短い言葉で提案しようと、教師全員で考えたものである。校長と教頭が本校と両分校をまわって、ロールプレイを行い、このスローガンのもつ意味を考えさせ、児童に意識付けを図った。「温かい心ってどんな心でしょう。」という質問に、児童は、「優しい心」「友達思いの心」「信じる心」など、真剣に考えることができていた。また、児童玄関には、『自分を大切にしよう』『友達を大切にしよう』『ありがとうを言葉に』を掲示している。取組の中で特に大切にしたいことを具体的な言葉で表したものである。両分校にも、スローガンとこれら3つの言葉を掲示している。児童は、学校生活の中で折に触れ、この言葉を目にして意識を新たにしている。



写真3 学級掲示

また、教室や廊下には、道徳コーナーや、今日一日を振り返り、気持ちを伝えるコーナーを設けたり、関連学習構想図を掲示したりして、児童の気持ちや意識を大事にした取組をしている。



写真4 本校児童玄関



写真5 井関分校児童玄関



写真6 西広分校児童玄関

成果と課題

- ・「伝え合う力」を育む学習プランを構築することによって、道徳の時間の指導計画を充実させることができた。
- ・体験活動と関連させることによって、道徳の時間には、児童の心を揺さぶり、より深く考えさせることができ、ねらいに迫ることができた。また、体験活動の前に道徳の時間を位置づけ、道徳的実践力を培うことができた。
- ・児童は互いに気持ちよく過ごすために、挨拶を交わすようになった。
- ・問題を解決するときには、相手の立場を考えて話せるようになってきた。
- ・友達を大切にした言葉や行動が目立つようになってきた。
- ・友達に良さががんばりを認めてもらうことにより、自信をもつようになってきた。
- ・親の愛情を感じたり、生命を大切にしようとしたりする心が育ってきた。
- ・体験活動をとおして、自分が様々な人々とかかわりをもって生活していることに気付き、道徳の時間に話し合うことにより、多くの人々に感謝の気持ちをもつことができた。
- ・児童の実態や発言等から、体験の足りなさを感じるものが度々あるので、体験活動を積極的に組み入れていきたい。
- ・道徳的実践力をさらに育成するために、学級便りなどに、道徳の時間の取組や児童の反応を掲載し、挨拶や手伝いなど、家庭への協力をはたらきかけていきたい。
- ・道徳的実践の場の決定については、特別活動やその他の教育活動を有機的に関連させた取組を進めていきたい。

(2) 特別活動部会

特別活動では、さまざまな集団活動を経験させ、その一員としての自覚を深めさせながら、言葉を意識した活動や授業を展開していくことで、自分自身を見つめ直し、主体的に活動できる児童をめざした。

また、年度当初には、全体計画（図6）を見直し、それをもとに学級活動年間指導計画（図7）を作成した。



図5 特別活動全体計画
学級や学校の生活の充実と向上に関すること
日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること

学級活動年間指導計画

月	第4学年	第5学年	第6学年
4	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級目標、個人目標を決めよう ① 学級の係を決めよう ② 自分の体のようすを知ろう (私の体重) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級目標、個人目標を決めよう ① 学級の係を決めよう ② 自分の体のようすを知ろう (尿の検査) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級目標、個人目標を決めよう ① 1学期の学級の組織作りをしよう ② 自分の体のようすを知ろう (脳の発育)
5	<ul style="list-style-type: none"> ① クラスみんなで楽しく遊ぼう ① 忘れ物について考えよう ② 食育(食べ物の働きと栄養) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「高学年」を考えよう ① 親子でワクワク集会をしよう ② 食育(おやつを取り方について考えよう) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 最上級生としてできることとしていこう ① 修学旅行へ行くか～自由行動について考えよう ② 食育(おやつを取り方について考えよう)
6	<ul style="list-style-type: none"> ① 雨の日の過ごし方を考えよう ① 係の仕事を見直そう ② 歯を大切にしよう (じょうぶな歯) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 雨の日の過ごし方を考えよう ② ワクワク集会を振り返って ② 歯を大切にしよう (むし歯の進行) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 雨の日の過ごし方を考えよう ① 修学旅行を振り返ろう ② 歯を大切にしよう (歯肉の病気を知りその予防をしよう)
7	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏休みに向けて ② 1学期を振り返って ② 性教育(仲の良いクラスづくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏休みに向けて ② 1学期を振り返って ② 性教育(女子の成長、男子の成長) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏休みに向けて ② 1学期を振り返って ② 性教育(個性を認め合うクラスづくり)
8 9	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級の係、個人目標を決めよう ① 運動会について ② 老人会のお年寄りに手紙を書こう ② 生活リズムを整えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級の係、個人目標を決めよう ① 楽しい自然教室にしよう ① 運動会について ② 老人会のお年寄りに手紙を書こう ② 生活リズムを整えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級の組織を見直そう、個人目標を決めよう ① 運動会について ② けじめのある生活をしよう ② 生活リズムを整えよう・運動とけが
10	<ul style="list-style-type: none"> ① 掃除を見直そう ② 読書について ② 目を大切にしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ① 読書について考えよう ① 「高学年」を考えようパート2 ② 目を大切にしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会見学の計画を立てよう ① 読書について考えよう ② 目を大切にしよう
11	<ul style="list-style-type: none"> ① 10才を祝う会を計画しよう ① 町内音楽会について考えよう ② 自分のステキ発見 ② 食育(朝食の大切さを知ろう) 	<ul style="list-style-type: none"> ② 就学前健診に向けて ① 低学年と楽しく遊ぼう ② 食育(朝食の大切さを知ろう) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 町内音楽会について考えよう ① 最上級生としてできること(伝えよう) ② 食育(朝食の大切さを知ろう)
12	<ul style="list-style-type: none"> ① 10才を祝う会をしよう ② 2学期を振り返って ② 冬の健康(インフルエンザの旅) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 冬休みに向けて ② 2学期を振り返って ② 冬の健康(換気をしよう) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 冬休みに向けて ② 2学期を振り返って ② 冬の健康(冬の衣服と健康な生活)
1	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級の係、個人目標を決めよう ① けじめのある生活について考えよう ② 食育(旬の食べ物を知ろう) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学級の係、個人目標を決めよう ① 音楽会について ② 食育(バランスの良い食事を考えよう) 	<ul style="list-style-type: none"> ② 新年の抱負をもとう ① 学級の組織を見直そう、個人目標を決めよう ② 食育(生活習慣病と食生活について考えよう)
2	<ul style="list-style-type: none"> ① お別れお楽しみ会について ① 外で元気に遊ぼう ② 性教育(テレビ、漫画と私たち) 	<ul style="list-style-type: none"> ① お別れお楽しみ会について ① 最高学年に向けて ② 性教育(思春期の心) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 卒業文集の準備をしよう ① お別れお楽しみ会について ② 性教育(こんな時どうする)
3	<ul style="list-style-type: none"> ① お楽しみ会をしよう ① 一年間の生活を振り返ろう ② 健康生活の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ① お楽しみ会をしよう ① 一年間の生活を振り返ろう ② 健康生活の反省 	<ul style="list-style-type: none"> ① 最上級生としてできること(感謝の気持ち) ① 小学校生活を振り返ろう ② 学校をきれいにしよう ② 健康生活の反省

図 6 学級活動年間指導計画(高学年)

特別活動では、活動場面で3つの柱のもとに取り組んでいる。以下に3つの 具体例を紹介する。

同年齢集団での活動

[学級活動]

ねらい

学級や学校における生活上の諸問題を解決するために、積極的に話し合い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

活動内容

ア 話し合い活動の意欲を高めるために

・ 計画委員会の開催

学級会に向けては、学年の発達段階に応じて可能な範囲で計画委員会を開いた。メンバーは、司会・副司会・黒板書記・ノート書記・提案者など（場合によっては、班長も参加）で組織される。まず、「議題」を決定し、「提案理由」や「めあて」、「柱」などを相談して「学級会計画」を立案する。柱については、十分に時間をかけて話し合う必要のあるもの1～2個に絞った。次に、帰りの会等でクラス全員に議題を提案し、児童一人一人の思いや願いを生かせるよう、自分の考えをワークシートに記入し提出する。そして、提出されたワークシートをもとに、話し合いの進め方を相談したり、フラッシュカードの作成をしたりして学級会にのぞむようにした。

学級活動・話し合い活動ワークシート
平成(20)年(2)月(8)日

議題(話し合うこと)	そうじをみるおや
めあて	主体的に話し合いに参加し、自分の言葉で発言しよう。
柱1	・時間内に終わらない場所はある？ ・歩道たい ・西がいでん ・どうしてだろう？ ・そうじをするほんらいがマダクイから ・人手が足りないから ・はなしてほめるから。
・どうすればうまくいくと思いますか？	必要以上に話しほしない。 きちんとしたんする。
柱2	・良いそうじの活動とはどんな活動だろうか？ きれいに早く。
・そのためあなたには何ができますか？	あまりしゃべらない。

◎話し合い活動のふり返り

1. 話し合い活動で自分の意見を言えた。	言えた	少し言えた	あまり言えなかった	全く言えなかった
2. 話し合い活動で友達の見解をしっかりと聞けた。	聞けた	少し聞けた	あまり聞けなかった	全く聞けなかった
3. 友達の見解に賛同や意見ができた。	できた	少しできた	あまりできなかった	全くできなかった
4. 話し合い活動をみんなで協力して行えた。	できた	少しできた	あまりできなかった	全くできなかった
5. 感想や反省	とてもきちょうじた。 けと自分のいんをいえたのでよかった。			

図7 話し合い活動ワークシート

学級会計画 5月26日月曜日 4時間目

議題	親子でフクフク集会をしよう			
提案理由	アンケートの結果、今年もドッジボールをしたい人が多いですが、ちがうともしたいという意見もあります。学年集会をもっと楽しみにするために、ドッジボールのほかにフクフク集会をいれたいと思っています。			
めあて	みんなが自分達も、おうちのみが楽しめる種目はどんなものなのか考えながら話し合おう。			
司会	N	副司会	U	黒板
話し合いの進行	時間	気をつけることなど		
1. はじめの言葉 (N)	3 ~ 4分	みんなが分かりやすいように話す		
2. 議題の確認 (U)				
3. 提案理由の説明 (I)				
4. めあての確認 (N)				
5. 話し合いの柱の確認 (U)	38分	みんなの意見を聞いてきめよう 時間内に終われるようにする		
6. 先生の話				
7. 話し合い	3分	また、ことをきちんと言う		
柱1 どんな種目にするか				
柱2 どんな係が必要か				
8. 決定事項の確認 (T)	3分			
9. 話し合いのまとめ (N)				
10. 先生の話				
11. 終わりの言葉 (N)				

図8 学級会計画

・学級会の環境づくり

話し合い活動の意欲を高めるため司会グループのネームプレートや黒板記録用短冊を作成し使用した。



写真7 ネームプレート

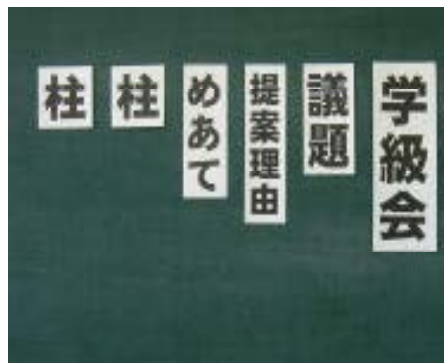


写真8 黒板記録用短冊

イ 学級会の進行を助けるために

- ・学級会では、できるだけ自分たちの力による問題解決をめざしている。そのためには、司会者へのサポートが大切になってくる。そこで、進行をスムーズにするために、右図の「学級会の進め方」カードを必要に応じて活用できるようにした。このカードがあることで、児童は自信をもち、迷うことなく会議を進めることができた。

成果と課題

- ・ワークシートに自分の考えを書くことにより、問題意識をもって学級会に参加できるようになった。
- ・少しずつではあるが、自分の意を押しとおすだけでなく、友達の意見に歩み寄ろうとする場面も見られるようになり、合意形成の仕方や大切さが理解できた。
- ・学級会の終わりに振り返りカードを書くことで、新たな意欲を生み出すことができた。
- ・発表時、ワークシートに頼りすぎる傾向が見られる。友達の意見をしっかり聞き、話し合いの中で生まれた質問や考えを自信をもって発言するよう支援していきたい。
- ・話し合う必要性のある議題（話し合う内容）を選び、話し合ったことがその後

学級会の進め方	
1.	「起立。これから学級会を始めます。礼。着席」
2.	「今日の議題は（ ）です。」
3.	「提案理由を言ってもらいます。（ ）さんをお願いします。 （提案者が提案理由を言う。） 「質問はありませんか。」
4.	「きょうの話し合いのめあては（ ）です。めあてが実行できるようにがんばりましょう。」
5.	「話し合いの柱は、（ ）と（ ）です。」
6.	「先生のお話です。先生をお願いします。」
7.	「それでは、話し合いに入ります。（ ）について話し合います。意見を出してください。」 「次に（ ）について話し合います。意見を出してください。」 「今までの意見をまとめると（ ）となります。これに決めていいですか。」
8.	「決まったことを書記の（ ）さんに発表してもらいます。（ ）さんをお願いします。」
9.	「先生のお話です。」
10.	「ふり返しカードを書いてください。」
11.	「これで学級会を終わります。起立。礼。」

図9 学級会の進め方(高学年用)

の学校生活に生かされるようにしていく必要がある。

- ・学級会が時間内に終われないことが多い。今後、話し合いをまとめる技術を指導する必要がある。

異年齢集団での活動

[縦割班によるレクリエーション活動]

ねらい

縦割班活動をとおして、異学年の児童とのつながりを深め、好ましい人間関係を築く。

低学年...仲良く助け合って活動に取り組み、上級生に感謝する気持ちを育てる。

中学年...下級生や上級生のことを考えながら、協力し合って活動に取り組み、仲間
に感謝する気持ちを育てる。

高学年...下級生のことを考えながら、信頼し支え合って活動に取り組み、リー
ダーとしての自覚をもつ。

活動時間

朝会や休憩時間に、内容に合わせて運動場・体育館・教室を使用して行う。

活動の概要

6年生（分校は3年生）から選出されたリーダーが集まり、活動内容を話し
合い、場所の調整をする。リーダーは会議で決まった内容や場所を児童玄関前
の黒板に記入して班員への連絡をしておく。活動日は、6年生が1年生を教室
に迎えに行き、活動場所に集合した後、集団ゲームなどを行う。活動後は全員
でその日の活動を振り返り、感想を述べ合う。活動状況を相互把握し、次から
の活動に生かすため、昼休憩時にはリーダー会議をもって、各班の活動の様子
や課題などを交流する。

その後の活動では、高学年のリードで、動きは少ないながらも、低学年の児
童でも安心して遊べるようなゲームを工夫しながらの活動が見られるようにな
った。6年生が、メンバーの名前を見えやすくするように大きな名札を用意し
たり、意図的にお互いの名前を呼び合うようなゲームを計画したりしていた。
その結果、低学年の児童がリラックスして活動を楽しめるようになり、それ
を見る高学年の児童も満足感を感じているようであった。

リーダーの感想

- ・ぼくたちの班は、最初は人の名前がわからず、楽しく遊べなかったけど、名前がだ
んだんわかってきて、みんな楽しく遊べるようになった。感想もよく出るようにな
った。みんながどんな遊びをしたいかを知って、もり上がる遊びを考えていきたい。
- ・最近、前よりみんなよく笑ったり話しやすかったりする。1年生がだんだんたてわ
りになじめてきているようで、少しうれしいです。みんなの名前が漢字でも読める
ようになりました。

成果と課題

縦割班活動の内容は回を重ねるごとに高まりつつある。この要因を次の2つの成果として考える。まず、6年生のリーダー会議をもったことである。ここでは、うまく進められなかった活動やその要因などを出し合った。互いの取組を知り、困っていることを共有することができた。このことにより、うまく進められた班の良さをすすんで取り入れようとする意欲をもつことができたと考えられる。

次に、異年齢でこそできる対話である。高学年の児童は、低学年の児童が一生懸命話す内容を理解しようと耳を傾け、ときには拍手をして発言に応えようとする。うなずきながら聞いてもらえた低学年の児童も自分の発言に満足することができる。ここでも話すことと聞くことの意味を共有し合えたと考える。

リーダー会議を指導する立場としては、今後も児童が相互の喜びや悩みを率直に出し合える場を保障し続けるとともに、ここでの相互理解をリーダー以外の高学年の児童にも広げていきたい。

また、どの学年の児童も満足感をもち、その活動の意味を理解できるような活動のあり方を考えていく必要がある。

地域とのかかわりを大切にした活動

[分校での取組]

ねらい

- ・ 地域の人とのふれ合いを深め、思いや願いなどを伝え合うことにより、ともに生きる喜びを味わう。
- ・ 体験活動に主体的に取り組むことで、地域を知り、生きる力を育む。

井関分校

活動内容

分校の特性を生かして以下のような活動を行い、地域の方との交流を深めている。

ア 菊の花摘み（1学期）

はさみや鎌を使っての作業となり危険を伴うので、注意やこつを教えていただき作業に取りかかった。児童は、広いハウスの中を端から端まで夢中で摘み取り、たくさんの菊を収穫させていただいた。

イ 田植え・稲刈り（1学期～2学期）

最初はぬかるみの感触に抵抗を示していた児童も徐々に慣れ、植え方を教えていただきながら作業を進めた。動きのとりにくい中での仕事の大変さを実感したようであった。

ウ 苺栽培（2学期）

畑を耕し、100本余りの苗を用意してくださり、苗植え、マルチ敷きを教えていただいた。霜が下りる頃、ビニールをかけてくださり、12月頃から収穫できるようになった。近くの方に教えていただき、苺を使った料理も作った。

エ 椎茸狩り、熊野古道探索（2学期～3学期）

10月に椎茸狩りをさせていただいた。その方が、1月に熊野古道探索に同行し、案内や説明をしてくださった。当時の様子や伝説の意味がよく分かった。

オ 昔の生活や遊びを学ぼう（3学期）

老人会の方からお話を聞かせていただいたり、一緒に遊んだりして、交流を深めた。

成果と課題

地域の方々とのふれあい、体験させていただくことにより、仕事の大変さや収穫の喜びなど様々なことを学びながら、生き生きと活動することができた。今後は、地域の行事などへの参加、支援も含め、児童がさらに積極的に地域の方々にかかわっていけるような取組をすすめていきたい。

西 広分校

活動内容

4年前、老人クラブの方々から、ワカメ作りには誘っていただき、それ以来、老人クラブの方々との交流が始まり、年々かかわりが深まってきた。

ア 大豆の栽培ときなこ団子作り（1学期～2学期）

学校で大豆を栽培していたが、なかなか上手く作れなかった。そこで、老人クラブの方々に、種の購入、まき時、まき方、取り入れ時などを教えていただいた。また、種まき前には畑を耕してくださったり、虫がついたときには消毒をしてくださったりした。児童は、大豆の生長の様子をはがきに書いて老人クラブの方々に知らせた。収穫後、石臼の使い方を教えていただきながら、きなこ団子を作り一緒に食べた。

イ 老人クラブとの交流会（3学期）

老人クラブの方々の思いや知恵を感じとり、尊敬や感謝の気持ちをもって接し、礼儀ある態度をとれるようにすることをねらいとして交流会を実施した。30名ほどの老人クラブの方が来てくださった。開会式で児童が合奏や歌を披露し、3学年に分かれて交流した。その後給食を一緒に食べた。児童は、「老人クラブの方はすごいな。よく知っているな」「家でのことをよくきいてくれた。」等の感想をもった。老人クラブの方々からは、「元気をもらえた。」「楽しく過ごせた。」等の感想をいただいた。

成果と課題

それぞれの活動でいろいろと教えていただき、一緒に楽しみながら活動することにより、高齢者の知恵や優しさにふれることができた。毎年交流することで、だんだんと話ができるようになり、なごやかな雰囲気になってきた。道で出会ったときなどは、児童から声をかけてくれるようになったと高齢者の方にも喜ばれている。今後、児童の方から声をかける機会が多くなるように働きかけていきたい。

(3) 国語科部会

「伝え合う力」を育む土台として、話す力、聞く力、話し合う力をつけるため、国語科の役割は大きいと考え、基本的能力や基礎的技能を、国語科により実践的に指導すべきであると考えた。そこで、国語科の研究内容として、下記の3点を中心に取り組んだ。

言語活動の基本的能力

- ア話すこと
- イ聞くこと
- ウ話し合うこと

言語の基礎的技能

- ア発音・発声
- イ文字
- ウ表記
- エ語句
- オ文・文章の構成
- カ言葉遣い

- ・年間指導計画の作成と「話すこと・聞くこと」の指導の充実を図る。
- ・基礎的技能のスキルアップを図る。
- ・国語科で身に付けた基本的能力や基礎的技能を実践的な場で育む。

年間指導計画の作成と「話すこと・聞くこと」の指導の充実を図る。

当校において、自分の意志や感情をうまく表現できない児童が多くなってきたのは、児童の人間関係が希薄になり、体験や経験が不足しがちであることだけが原因とはいきれない。国語科を指導する際、文学的文章の読解に偏りがちになり、「話すこと・聞くこと」の指導について各学年の具体的な指導が、十分なされていないのではないかと反省するものである。そこで、「伝え合う力」を育むため、学年ごとの年間指導計画を作成し、各学年に示された「言語活動例」をとおして、「話すこと・聞くこと」について、指導の充実を図ることとした。

月	単元・教科名	目標	話すこと(話す)	書くこと(書く)	読むこと(読む)	言語事項	
4月	字を当てる、音で当てる、音で当てる(1.4時限)	「場面」について知り、二つの場面の様子を想像しながら読み、様子から分かるように真に出して読み進める。	内容を覚えて理解したことを、聞き手によくわかるように話している。	書く練習	二つの場面の違いや場面を筋立てをもとに想像しながら読んでいく。読み進めるにつれて場面の特徴が読み手によく分かるように声に出して読んでいく。	言語事項	
5月	「国語辞書を使う」(2時限)	ありの形態に興味を持って読むとともに、「辞書」について知り、また丁寧に注意しながら調べ方を覚える。				「聞く」「答える」などが素直で丁寧な。指導の場面を通して、場面の特徴が読み手によく分かるように声に出して読んでいく。	文学的場面について、辞書を参照して調べ方を理解している。指導の場面を通して、場面の特徴が読み手によく分かるように声に出して読んでいく。
6月	分かるやうに書く「おもしろいもの、見つけた」(1.4時限)	書き手に対して興味を持って書く。書き手と読み手とのつながり、見つけたものを友だちに分けようとする。正しく読み取り、わかりやすい、正確に読み取り、わかりやすい文章を書く。	場面内で大切なことを書き、相手に正確に伝わるように言葉を選ぶ。				読み手と筆者のつながり、見つけたものを友だちに分けようとする。正しく読み取り、わかりやすい文章を書く。
7月	手と音で分かる「手はあかち」(1.6時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
8月	誰かが話している、読み手「おもしろいこと」(1.4時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
9月	場面の様子を想像しながら読む「おもしろい人の話」(1.3時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
10月	場面の様子を想像しながら読む「おもしろい人の話」(1.3時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
11月	場面の様子を想像しながら読む「おもしろい人の話」(1.3時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
12月	場面の様子を想像しながら読む「おもしろい人の話」(1.3時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
1月	場面の様子を想像しながら読む「おもしろい人の話」(1.3時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
2月	場面の様子を想像しながら読む「おもしろい人の話」(1.3時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					
3月	場面の様子を想像しながら読む「おもしろい人の話」(1.3時限)	書き手と読み手の両方に興味を持って読む。誰かの話を聞いて、読み手と読み手のつながり、自分から読み手に対して、書き方を工夫して「手」を書き進める。					

図10 国語科主な指導計画

ア 具体的な実践例

「話すこと・聞くこと」について指導する単元では、年間指導計画をもとに目標及び指導内容を確認、「話す・聞く・話し合う」目的意識や相手意識を児童にしっかりとたせるとともに、児童が問題意識をもてるような言語活動を工夫し、展開した。図12は平成19年度第3学年3学期の実践である。「考えを整理して話し合おう」の単元では、次のような言語活動を設定した。本校の第3学年では、体育科において「ポートボール」の学習が始まる前だったので、グループのチーム名を決めることにした。井関分校の第3学年は、学年末に作成する学年文集の名前を決めることにした。また、西広分校の第3学年では、この頃学級でフナを飼い始め、児童から名前をつけようという話が出たので、フナの名前を考えることにした。

このように、本校、分校それぞれの実情や必要性を考え、児童が問題意識をもてるような議題を設定し、話し合い活動を展開した。教科書に示されている『話し合いの進め方』や『たいせつ』を模造紙に書いて掲示し、丁寧に指導した。単元目標「お互いの考えをよく理解し、合意点を見つけながら話し合う」を児童に意識させ、考えを言うだけでなく、その理由をはっきり発表させるとともに、お互いの意見を尊重し、よいところを生かしたりつなげたりしながら、合意形成に至るような話し合い活動を行った。

その後の学級会においても、『話し合いの進め方』や『たいせつ』を確認ながら話し合いをした。

領域	単元名	教材名	具体的な言語活動
話すこと 聞くこと	考えを整理して 話し合おう	名前をつけよう	・ポートボールのチーム名を決める。(本校) ・文集の名前を決める。(井関分校) ・フナの名前を決める。(西広分校)
複合	言葉って おもしろいな	漢字と友だち	・漢字の『書き方歌』を書く。(本校) ・発明漢字当てゲーム(井関分校) ・おもしろい漢字大発見(西広分校)
複合	学習したことを 生かして	モチモチの木	・音読会(本校) ・お話し会(紙芝居・ペープサート)(井関分校) ・読み聞かせ(西広分校)

図11 平成19年度第3学年3学期の実践

基礎的技能のスキルアップを図る。

年間指導計画のもと、基本的能力を身に付けるためにはそれを支える基礎的スキルを確かに身に付けることが必要であり、声の大きさや話し方の基本的話型など音声言語に関する力や聞く力を身に付けることが大切だと考えた。しかし、国語科だけではなく身につきにくいのも現状である。そこで、「話し方」「話し上手・話し合い上手」「聞き上手」「声のものさし」を作成し、国語科や他教科において、話したり、聞いたりする時の具体的な観点を指導し、基礎的スキルアップを図ろうと考えた。

ア 学習指導要領における各学年の「話すこと」の目標と当校の基本的な考え（図13）をもとに「話し方」を作成し、どの教科においても意識しながら取り組んだ。

学年	話し方	話し方に関する基本的な考え
低学年 なかよし	はい、～です。 わけは、～です。	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は自分、中学年は自分と友達とのかかわり、高学年はより多くの人への働きかけを意識させる。 ・国語科や他教科においても系統的に指導する。 ・あくまでも基本であり、自分の言葉で話すことを意識づける。 ・児童の実態の応じて、柔軟な指導を心がける。
中学年	はい、～です。 わけは、～です。 はい、さん はい、さん わけは、～だから	
高学年	はい、～です。 わけは、～です。 はい、さんと同じで です。 はい、さんとちがって です。 わけは、～だからです。 みなさんは、どう思いますか。	

図12 基本的な考え

図13 低・中・高学年の話し方

イ「話し上手・話し合い上手」「聞き上手」は、低・中・高学年ごとに指導の観点を決め、系統的に取り組むことにした。本校、分校ともに、教室や特別教室の黒板周りに掲示スペースを設け、どの教科においても必要な時に適宜指導するよう心がけた。

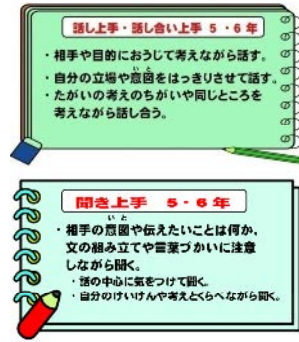
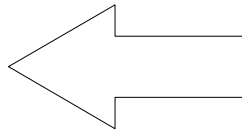


図14 「話し上手・話し合い上手」「聞き上手」

ウ「声のものさし」は平成18年度より取り組んでいる。これを引き続き活用し、話す目的や場に合った声の大きさを意識させた。

国語科で身に付けた基本的能力や基礎的技能を実践的な場で育む。

国語科で身に付けた基本的能力や基礎的技能を実践的に発揮する場として「スピーチ」を金曜日の学級朝会の時間に設定した。「話し方」「話し上手・話し合い上手」「聞き上手」「声のものさし」の観点によって、話し手意識や聞き手意識をもたせながら、話す目的や内容によってよりよく伝わる「スピーチ」をめざし、取り組んだ。

成果と課題

ア 成果

- ・「話し方」「話し上手・話し合い上手」「聞き上手」「声のものさし」の観点により具体的な指導ができた。例えば、「『声のものさし』にあるように教室の広さに合った声の大きさで話そう。」「話す人の方を見て、うなずきながら聞こう。」というように、どれくらいの声の大きさなのか、どのように聞くのが等、教師が具体的な指導をすることにより、児童自身が理解しやすくなった。
- ・「スピーチ」によって、話し手・聞き手意識が育ってきた。例えば「スピーチ」をする前に、聞き手に伝わるかメモを書いたり、家の人に聞いてもらったりするなど、話したいことが聞き手に正確に伝わるように話そうという、話し手意識が徐々に育ってきた。一方聞き手は、積極的に質問や感想が言えるようになるなど、話し手が伝えたいことは何か、興味・関心をもって聞こうとする意識が育ってきた。

イ 課題

- ・「話し方」からの脱却の難しさ

「話し方」「話し上手・話し合い上手」「聞き上手」「声のものさし」によってどのように話せばよいのか、どのように聞けばよいのかという観点が分かり、児童はある程度身に付いてきたと言える。しかし「話し方」については、型にはまったことなら言えるが、自分の言葉で話すとなると、まだまだ苦手意識が働いてしまう児童も見られる。班やペアのような小集団での話し合い活動を工夫したり、個別指導に力を入れたりして、日頃の地道な取組を大切にしていきたいと考える。

2 「伝え合う力」を育む場での取組

当校では、様々な場面で「伝え合う力」を育む場を設定し、そこでできるだけ数多く、児童が思いや考えを発表したり、聞き合ったりできるように工夫してきた。

(1) あいさつ運動

児童会役員は、全校での朝の会の司会や誕生会の運営等にあたってきた。また、日常活動の柱に「三つの“あ”運動」(あいさつ、あんぜん、あとしまつ)を立て、全校児童の先頭になり、特にあいさつ運動を中心に推進してきた。この取組は児童会役員から全校的に広まり、自分からすすんで元気よくあいさつのできる児童が増えている。

(2) 本分校の交流

第3学年の総合的な学習の時間「Let'sたんけん!南広」では、「すてきなところや珍しいこと」を本校、両分校で交流し合った。まず、本分校別に校区を探検し、興味をもったところを出し合い、友達に知らせたいことをそれぞれ選び、調べ学習を進めた。

日頃少人数の中での発表しか経験できない分校の児童は、交流会の中で発表することにより、大勢の前で発表する力をつけることができた。さらに、質問に答えたり、意見をかわしたりすることで、多様な考えに触れることもできた。また、本校の児童は、普段はあまり知ることのなかった分校の様子や良さを知ることができ、分校や分校の友達を身近に感じることができるようになった。この活動をとおり、知識の交流だけでなく、お互いを理解し合おうという気持ちも芽生え、心の交流にもつなげることができた。また、本分校の3年生が、年生になり、一つの学級になった時の人間関係づくりにも生きて働く取組となっている。

(3) 児童朝会

	月	火	水	木	金
本校	学級朝会	全校朝会(体育) 縦割班活動 (第4火曜日)	学級朝会 (読書)	全校朝会(音楽) 誕生会(第3木曜日)	学級朝会 (スピーチ)
井関分校	元気っ子タイム	音楽	クリーンタイム	読書	誕生会(第1金曜日) 分校会議 (第2金曜日)
西広分校	読書	ドレミファタイム	青空タイム	クリーンタイム	西広タイム 誕生会(第4金曜日)

図15 朝会の週計画

本校では、火曜日と木曜日の朝会に全校で集会活動を行っている。体育委員会や音楽委員会が中心となり、みんなが楽しめるような活動を考え、朝会を進めている。本校の朝会全体の司会は児童会役員が務め、責任をもって運営にあっている。児童の

感想を出し合う場面を設定するなど、自主的に活動できることも増えてきた。両分校では集会活動を3年生が中心となって進めている。分校の最高学年としての自覚も育ってきている。

また、毎月誕生会を行っている。誕生月がきたら、一人一人が学年のテーマにそってスピーチを考え、ひな壇に立ち全校の前で発表する。自分の思いや考えなどを発表することは、児童にとってとても緊張することであり、はずかしさを伴

うことでもある。しかし、「緊張したけど言えた。」「自分のことをみんなに知ってもらえた。」という思いをもち、成就感や自己肯定感が育っている。聞く側には、一人一人の発表を共感的に聞く姿勢が育ってきている。また、そのことで発表者も安心して語るができるようになってきた。児童にとっては一年に一度であるがとても重要な伝える場となっている。

誕生会での学年のテーマ

第1学年	生まれたときの様子
第2学年	名前の由来
第3学年	今がんばっているお手伝い
第4学年	今一番夢中になっていること
第5学年	最近感動したこと
第6学年	自分の特技や趣味、将来の夢

(4) 読み聞かせ

地域の読み聞かせサークル、「おはなしぼけっと」さんによる読み聞かせの会を毎月開催している。児童は、聞き終わった後、感想を伝え合うことで、心の交流を図っている。自分の素直な思いを語る児童が増えてきている。また、図書委員会では、本に親しんでもらおうと、読み聞かせの会を行っている。聞く人に分かりやすく伝えるにはどうしたらいいのかを考え、声の大きさや読む速さ等に注意しながら、練習を重ねて取り組んでいる。

(5) 学年行事

P T A活動として、6月を中心に親子一緒に活動する学年・分校行事を行っている。親子での体験活動をとおして、互いに感じたことを伝え合い、親・子・教師の絆を深めている。

(6) 運動会

児童会役員が中心となって運動会のテーマを設定し、全校一丸となって、そのテーマに向かい取り組んでいる。また、中学年の「キッズ・ソーラン」では、4年生が3年生に教え、互いに高め合う場を設定することにより、効果的な異学年の交流を図っている。

1年生は新入児への手紙づくり、2年生は新入児への案内状づくり、3年生は新入児へのおみやげづくりを行っている。4・5年生は地域の高齢者の方々への案内状づくり、6年生は地域の方々に見に来ていただくためにポスターづくりを行っている。このように全学年で役割を分担することで、主体的に行事をつくり上げる実感をもたせるとともに、地域の方々とのふれあいを深める機会としている。

(7) 校内音楽会

音楽会のテーマのもと、各学級で話し合い活動を設定し、参加する喜びや、互いに認め合い、励まし合う態度を養うよう取り組んでいる。平成19年度は、「最高の笑

顔、きれいな音色、みんなの心に届けよう」をテーマに取り組んだ。掲示委員会が掲示用プログラムを作成したり、音楽委員会が地域の方も一緒に歌える「みんなの歌」を企画したりと活躍した。また、5・6年生が地域の高齢者の方々に招待状を送ることで、南広小の音楽を地域に届けたいという思いを育て、地域の一員としての実感を高める機会としている。

(8) 地区別ボランティア清掃活動

夏季休業中の登校日のうち1日を地区別に実施し、地区児童会の活動としてボランティア清掃活動に取り組んでいる。

地区児童会の一員としてボランティア活動することにより勤労を尊ぶ態度と公德心を身につけ、地域との連帯感と奉仕的態度を育てることをねらいとして行っている。活動後、感想を出し合い、上級生が下級生の頑張りをたたえるなど、苦労したことや、活動したことの価値を共有している。

(9) 地域との交流・連携（共育）

ラジオ放送局アナウンサー・区長会代表・老人会長・公民館長・校区駐在所警察官・南広小学校評議員・PTA会長・耐久中学校長・広川町教育委員等で「南広小学校伝え合う力を養う連絡協議会」を発足した。

学校の取組を報告したり、地域の方々の話を聞かせていただいたり、意見交流を行っている。協議会では、「あいさつをする子が多くなった。」という声を聞かせていただいた。

当校は以前からあいさつ運動を行っていたが、この研究を進める中で児童が地域の方々へとあいさつの輪を広げていることが分かった。児童にもその声を伝えて評価することができた。

保護者には、学級での取組の様子を適宜通信をとおして発信している。また、道徳の授業を参観していただき、後の学級懇談会で話し合うことで、理解と協力を深めていただいている。保護者から感想や思いを連絡帳等で知らせてくださるようになり、連携が生まれてきている。

(10) 1年生を迎える会

入学してきた1年生を全校で祝い、不安な気持ちの1年生を励まそうというねらいで実施している。ステージの上に立った1年生に向かって2年生から順番に歓迎の言葉を贈り、1年生は、一人一人大きな声で自分の名前を言うことができた。思いを伝え合えるいい機会となっている。

3 「伝え合う力」生活アンケート

児童の実態を把握し、取組に生かす目的でアンケートによる意識調査を実施した。同じ内容のアンケートを4回（平成19年9月、平成20年1月、4月、7月）実施し、そこに表れる児童の意識を比較することで、研究の成果等を見る材料とした。

2回目からは、理由を書く欄を設け、児童の心を探るようにした。そこに表れた結果から児童の変容について顕著なものを以下に述べる。



図16 生活アンケート

設問 「あなたは、自分からあいさつをしていますか」

「かならずしている」と答えた児童が増えてきている。理由の中にも「あいさつすると気持ちいい」「言わないと変な感じがする」と言ったことが多く書かれている。あいさつの輪が広がってきたと言える。

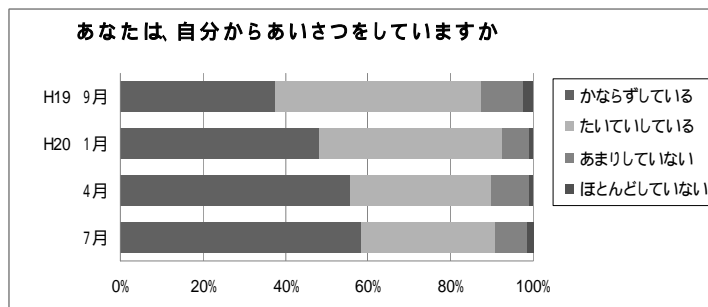


図17

設問 「あなたは、何かしてもらったとき『ありがとう』と言っていますか」

「か

ならず言っている」と「たいてい言っている」を合わせると95%を超えている。「ありがとう」と言うことは定着している。「自分から言うのは当たり前」と考えている児童が多い。ただ、「言わないと次に何かしてもらえない」と考えている児童もいる。

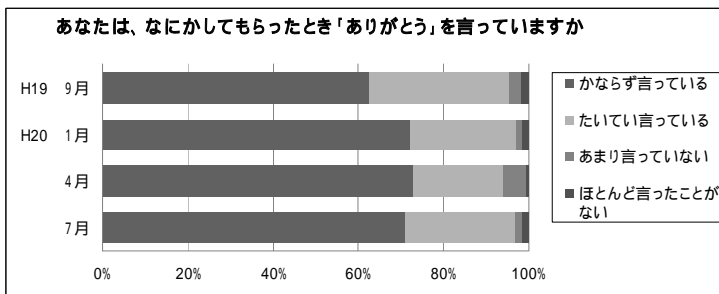


図18

設問 「あなたは、友達がこまっているとき、手助けしたことがありますか」

「いつもしている」「たいていしている」を合わせた児童は約80%で大きな変化は見られないが、平成20年7月のアンケートで「いつもしている」と答えた児童が増えた。「相談にのることが多くなった」「助け合うのが友達だから」等の意見から、相手にかかわっていきこうという意識が高まってきていると考えられる。

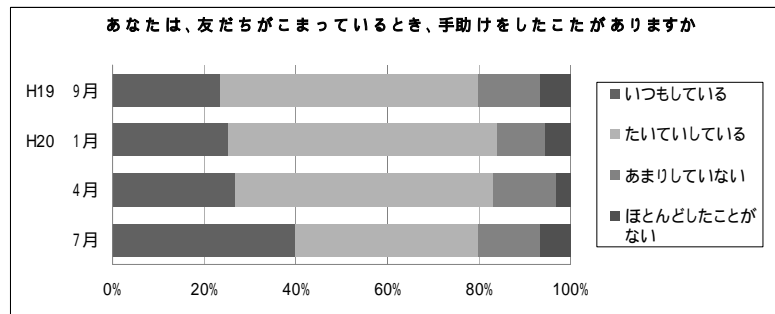


図19

設問 「あなたは、自分の気持ちを友達に伝えることができますか」

各回とも、「よく伝える」と「ときどき伝える」を合わせた割合は、70%前後である。平成19年9月が一番高く、1月、4月と少し下がり、7月には増えている。このデータを見る限りでは、自分の気持ちを友達に伝えるにくくなっているようにみられる。理由としては、児童の自己を見つめる目が成長してきているからではないかと考えられる。今まで帰りの会等で伝えたり、教師に直接言いに来ていたのを、自分でまず伝えるように指導している。そういったことも児童がアンケートに記入する場合、伝えられていないと判断しているのではないかと考えられる。「ほとんど伝えない」と答えている児童が15%程度いる。理由は「嫌われたらいやだから」「言ないことがある」「はずかしい」等である。この児童達を「何でも話せる」という気持ちにさせるような取組を進めていかなくてはならない。

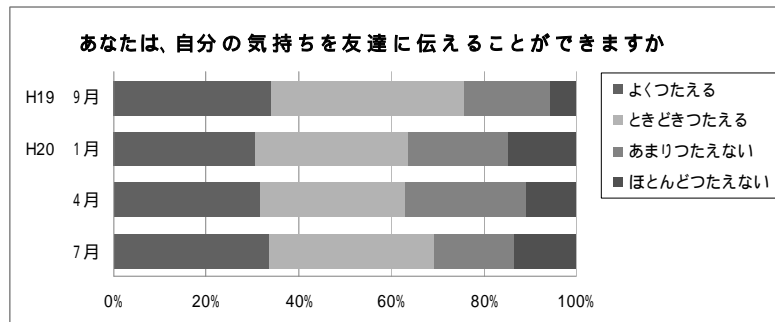


図20

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ・「伝え合う力」を育む場を設定し、できるだけ数多く、児童が思いや考えを発表できるように工夫してきた。そうした中から、自分の素直な思いを語れ、相手の発言を考えながら聞こうとする態度が育ってきている。また、学校生活で起こったことについて、自分たちで話し合い、解決しようとする意識が高まってきつつある。
- ・児童が他の学年にも目を向けられるようになり、休憩時間等で異学年同士で声をかけ合

う姿が見られるようになった。

- ・ 道徳の時間と特別活動を関連させ、言語活動の環境を整えたことで、自分の思いを安心して表現しようとする児童が増え、相手意識を抱きはじめている。自分たちの力で計画的に実践していこうとする力が付き、友達や人のために活動することの喜びをもつ児童が少しずつではあるが増えてきている。そのやり遂げた喜びが次の活動へつながり、自信となって、よりよい言動をめざす児童が増えてきた。
- ・ 「伝え合う力」を育む学習プランを実践したことで、ねらい達成のための取組や 教師の意識が整理され、子どもの変容を捉えやすくなるとともに、意識を継続させることができた。
- ・ 道徳の時間の充実をめざし、道徳について基礎から学び、研修を積み重ね授業研究として公開授業を行った。授業のみならず準備段階で、資料のことやねらいのこと、発問のこと、板書のこと、提示教具のこと等さまざまなことを話し合う中で、互いの学び合いが可能になり、これまでできなかったことや見えていなかった児童の内面が、見えてくるようになってきた。
- ・ 「伝え合う力」を育む場を設定することによって、相手意識、目的意識をしっかりもち、じっくり聞く姿勢が身に付き、主体的に学習を進める児童の姿が見受けられるようになり、その成果は、学力の向上にもつながったと考えられる。

(2) 課題

- ・ 特別活動におけるそれぞれの活動が、その効果を上げるには、やはり基盤となる学級での人間関係が豊かでなければならぬ。子どもと子ども、子どもと教師、教師と教師の人間関係づくりが大切である。その意味で、学級活動をはじめとした特別活動の指導について、教職員の共通理解が何よりも必要である。道徳の時間をはじめ、国語科・他の教育活動との効果的な関連の在り方について見極め、特別活動の指導についての研修をさらに深めていく必要がある。
- ・ 一人一人を見つめながら、指導の継続を図り、よりよい人間関係を築かせるために、道徳の時間における心育ではもちろんのこと、その他の活動にも価値付けをし、家庭・地域との連携を深めながら、言葉で解決していこうとする児童の力の育成に向け、支援していくことが大切である。

